

平成 20 年度 都市景観大賞
「美しいまちなみ賞」
受賞地区概要

「都市景観の日」実行委員会

受賞地区一覧

「美しいまちなみ大賞」

| 地区名 | 応募者 |
|--|--|
| <small>むらかみしきゆうちやうにんまち きゆうぶげまち</small> 村上市旧町人町・旧武家町地区 (新潟県村上市) | <ul style="list-style-type: none"> ・むらかみ町屋再生プロジェクト ・チーム黒塀プロジェクト ・村上市 ・村上大工 匠の会 |
| <small>みなみおぐにまちくろかわおんせん</small> 南小国町黒川温泉地区 (熊本県南小国町) | <ul style="list-style-type: none"> ・黒川温泉自治会 ・南小国町 ・黒川温泉観光協会 ・黒川温泉観光旅館協同組合 |

「美しいまちなみ優秀賞」

| 地区名 | 応募者 |
|--|---|
| <small>ながのし だいもんくらにわ</small> 長野市ぱていお大門蔵楽庭地区 (長野県長野市) | <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社まちづくり長野 ・長野市 |
| <small>しまだしちゆうおうだいさん</small> 島田市中央第三地区 (静岡県島田市) | <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社まちづくり島田 ・島田市 ・株式会社アーバン・ハウス都市建築研究所 ・昭和設計株式会社 |
| <small>いたみし いたみさかくらどお</small> 伊丹市伊丹酒蔵通り地区 (兵庫県伊丹市) | <ul style="list-style-type: none"> ・伊丹酒蔵通り協議会 ・伊丹市 |
| <small>とっとりしゆめかいどう しかのおうらいじようかまち</small> 鳥取市夢街道・鹿野往来城下町地区 (鳥取県鳥取市) | <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 ・鳥取市 |
| <small>やめしやめふくしま</small> 八女市八女福島地区 (福岡県八女市) | <ul style="list-style-type: none"> ・八女福島伝統的町並み協定運営委員会 ・八女市 ・特定非営利活動法人八女町並デザイン研究会 |

「美しいまちなみ特別賞」

| 地区名 | 応募者 |
|--|---|
| <small>よこはまし しかたびらがわしんすいりょくどう</small> 横浜市帷子川親水緑道地区 (神奈川県横浜市) | <ul style="list-style-type: none"> ・帷子川親水緑道 鶴ヶ峰地区愛護会 ・帷子川親水緑道 白根地区愛護会 ・帷子川親水緑道 家敷地区愛護会 ・帷子川親水緑道 ホタルの会 ・横浜市 |

審査講評

○村上市旧町人町・旧武家町地区

かつての町人町の記憶をとどめる商家を、市民の手で保持し、それを季節ごとの的確なイベントで来訪者に公開している活動は、全国の同種の運動の先駆けとなるものである。商家の内部公開から始めたものが、外装の復元、黒塀プロジェクトなどへの広がりを示しているのもすばらしい。こうした様々な取り組みは単なる景観整備を越えて、多数の市民、民間組織・グループ、それに JR、行政等を巻き込んだ大きなムーブメントをおこし、市民自治による生活文化創造のレベルに達していると言ってよく、この点が高く評価できる。また「町屋再生プロジェクト」においては、基金による助成のほか、古材バンクを作り、柱、板、瓦、建具等を蓄えておき、可能な限りこれらを活用することにより、古くからの景観の再生に役立てるとともに、コストダウンを図る取り組みは特筆に値する。

○南小国町黒川温泉地区

黒川全体を一つの旅館とみなし、道はその廊下であるという「黒川一旅館」というコンセプトのもと、公共と住民が一丸となって地区整備を行い、総合的な街づくりを目指している。一つ一つの成果は素朴で地味であるが、周辺の農地の保全までも含めた地区全体の景観整備を行うことが黒川温泉の繁栄と地域の活性化につながるという意識が共有されており、プロセス重視型の成果として高く評価できる。

○長野市ばていお大門蔵楽庭地区

善光寺の門前にあって、近隣一帯が旧来の観光地のイメージが強い中、既存の蔵を生かして奥行きを感じさせる空間を創出し、市民生活に溶け込む都市的な雰囲気をもたらした。町並み保全と商業活動がうまく相互に強化されており、空き蔵が店舗として有効に活用されている。また蔵の修復・改築とともに中庭空間（蔵楽庭）や風情ある小路なども含めて全体のデザインが優れている。これからの長野の中心市街地再生の一つの指標としても高く評価できる。

○島田市中央第三地区

地区のシンボル軸である「おび通り」の空間デザインは、自然素材を多用し、燻色、黒、白を基調とした色彩計画にも好感がもてる。株立ちの樹木の使い方も良く、和風の広場というコンセプトも成功している。また地区計画によって沿道建物の壁面位置をセットバックして揃えるなど、建築物と道路とが一体となった空間誘導がさりげなく市民生活に溶け込む形で進められており、さほどの歴史的資産が残されていない地区での新しい街並み形成のケースとして評価に値する。

○伊丹市酒蔵通り区

昭和 30 年代までに存在した酒蔵づくりの町並みの大半が、先の阪神淡路大震災により消滅したことは残念であり、また地区の中心に整備された広場のデザインとその日常利用に工夫の余地があるが、地区内において景観、商業活性化、交通計画の三位一体がほぼ実現されていることに加え、地区の縁辺部（劇場、美術館、公会堂などの文化系公共施設の集中立地を図っている）も含めた総合的な達成を考慮すると、まちなみ優秀賞にふさわしい地区であると評価できる。

○鳥取市夢街道・鹿野往来城下町地区

景観整備に関して、公共施設の整備は行政が中心に行い、活動拠点と食事処の運営、観光イベント企画、民家の改修指導等は NPO 法人が実施するという役割分担がうまく連携している。建物のデザインに関しては「400 年の伝統をもつ『鹿野祭り』に似合うかどうか」が最終的な判断基準となっており、祭りと建物の密接な関係で町並み景観が形成されていることがユニークであり、それも NPO 法人を中心とする市民の積極的な活動、主体性によるものであることが高く評価できる。電線類の地中化が未だ実施されていないことが惜しい。

○八女市八女福島地区

住民によるまちづくり組織が中心となって、城下町建設当時の町割り、居蔵造などの歴史的まちなみ景観の保全活動が進められ、また建築士、大工等で結成する町並みデザイン研究会による伝統技術の継承・普及活動は高く評価できる。町家の再生活用も積極的に進められ、町並み形成とビジネス創成、若い新住民の定着誘導などがバランスよく成果を上げていることも評価できる。

○横浜市帷子川親水緑道地区

旧河川沿いの土地を活用して都市内に豊かな自然空間を創出しており、水辺を活かした親水緑地としてデザインが洗練されている。市が取得した 9,000 m²の公共緑地のほかに隣接の民有林を借景し、一体として大きな自然空間を創出。地区の管理や活用に関して、市民主体の様々な取り組みにより、多世代の人々が集まる場となっており、また小学生の環境教育の場となっていることなども高く評価できる。

美しいまちなみ大賞

村上市 旧町人町・旧武家町地区

所在地 新潟県村上市
地区面積 約165ha
応募者 むらかみ町屋再生プロジェクト
チーム黒塀プロジェクト
村上市
村上大工匠の会

<地区の概要>

当地区は城下町として武家町と町人町の面影を色濃く残し、旧町人町には伝統的な町家が約370棟、旧武家町では茅葺きの武家屋敷が11棟残っている。

旧町人町では市民が中心となって「町屋の外観再生プロジェクト」や「黒塀一枚1,000円運動」を展開し、市民基金による町屋の再生と黒塀による昔ながらの景観づくりを推進している。町屋の外観再生に当たっては地元の大工集団が古材バンクをつくり、蓄えた古材を活用して外観の再生を安価で実現している。旧武家町では、行政による旧武家屋敷の移築復元や、景観条例に基づき生垣や住宅の外観に対する補助制度を設け、緑豊かな住環境の創造と景観形成が進められている。

通年での「町屋の公開」や、町屋の人形、屏風などの公開イベントの開催等により、来訪者の増加と再生町屋(商店)の売上増につながっている。



▲平成14年「黒塀一枚1000円運動」を展開。子供からお年寄りまで集めて、ブロック塀の上からトンカチとペンキ塗りを行ってつくる。



▲平成19年までに320mの黒塀が完成している。



▲町屋再生プロジェクト第3号。伝統工芸品の木彫りの堆朱のお店。アーケードを外し見違える姿に。



▲町屋再生プロジェクト第5号。単なる食堂から町屋のレストランとして村上牛の専門店がオープン。



美しいまちなみ大賞

南小国町 黒川温泉地区

所在地 熊本県南小国町
地区面積 約52.1ha
応募者 黒川温泉自治会
南小国町
黒川温泉観光協会
黒川温泉観光旅館協同組合

<地区の概要>

当地区は周辺を山々の自然に囲まれた閑静で緑豊かな温泉地である。湯治湯として江戸時代より諸大名の旅の宿として利用されていた歴史を持ち、今もその名残を残している。

温泉地として古くから守られてきた景観と自然環境を活かし、素朴で田舎らしい落ち着いた雰囲気を目指して、乱立する看板の撤去をはじめ、雑木による沿道及び民地内の緑化、建造物の高さ・構造・色彩の統一化、歩行空間の整備、水源涵養のための植樹やホタルの育成など、住民・行政が一体となって地域ぐるみで景観の形成と環境づくりに取り組まれている。

この結果、観光入込客数の増加・雇用の増大などの経済効果を発揮し、観光に訪れた人が黒川の魅力に惹かれて町に定住するケースも見られる。



▲ 整備された丸鈴橋。構造物は周囲の緑にとけ込む茶や黒を基調としている。



▲ 整備された「川端通り」。



▲ 街なみ環境整備事業で建設された多目的集会施設「べっちゃん館」。



▲ 道路整備や景観の演出により歩行者空間の充実を図る。



▲ 構造物と自然との調和を目指した景観づくり。自然のままの多様な種類の雑木を植樹し、四季折々の風景を楽しむことができる。



▲ 統一感のある共同看板。

美しいまちなみ優秀賞

長野市 ぱていお大門蔵楽庭地区

所在地 長野県長野市
地区面積 約0.31ha
応募者 株式会社まちづくり長野
長野市

<地区の概要>

当地区は長野駅から善光寺に通じる中央通り沿いに位置し、当地区を含め周辺一帯は、古くから善光寺門前の問屋街として栄えてきたところである。

「ぱていお大門蔵楽庭」は、老朽化し空家などが目立っていた蔵群（15棟）を改修・新築し、テナント19店舗が入居する商業施設として平成17年にオープンした。これとほぼ同時期に市民と市が協力して当地区を含む大門南において街づくり協定の締結や景観自主条例による街並みの保全に取り組み、その後平成19年から景観法に基づく景観計画推進地区に移行して、街並み景観の形成が図られている。

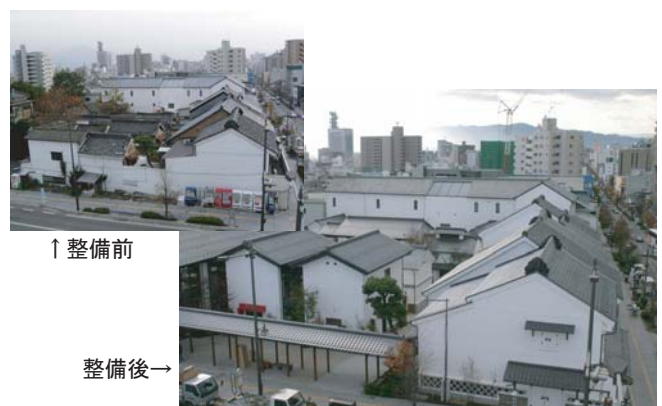
整備後は中庭等を活用してテナント会等による各種イベントが開催され、地区周辺の歩行者量の増加や、市の新たな賑わい拠点の創出に寄与している。



↑整備前

整備後→

▲中央通り側からの全景。整備前は、空家が目立ち、奥にある古い蔵は朽ち果てる寸前の状態だった。



↑整備前

整備後→

▲国道406号側からの全景。敷地面積0.31haの中に、15棟（改修11棟、新築4棟）の蔵が集積している。



▲中央通りに面する「ぱていお大門」の西面。店蔵が軒を連ねる100年前と変わらない街並みを残すことができた。



▲蔵に囲まれた中庭空間は、蔵楽庭(くらにわ)として親しまれている。



▲敷地全体が緩やかな南下がりの傾斜地であり、この自然傾斜を活かして風情ある小路を整備している。



▲「テナント会」企画のジャズコンサートの様子。

美しいまちなみ優秀賞

島田市 中央第三地区

所在地
地区面積
応募者

静岡県島田市

約2.0ha

株式会社まちづくり島田

島田市

株式会社アーバン・ハウス都市建築研究所

昭和設計株式会社

<地区の概要>

当地区は、島田市の中心市街地に位置し、古くから旧東海道(本通り御仮屋線)を中心に発展してきた地区である。

平成8年に建設省(当時)の「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」の地区指定を受け事業が進められた。平成9年に地区計画を策定し、建築物、壁面位置等に一定の行為規制を設け、建築物と道路の一体的な空間形成を誘導している。地区のシンボル軸である「おび通り」(歩行者専用道路)は、舗装材に御影石や燻し瓦を、ベンチ、スツールに自然素材を用い、水路、ステージなど様々な魅力的仕掛けが施されている。整備された空間を活用してTMOが主催する「しまだ元気市」や「悪口コンテスト」など多彩なイベントが開催されている。

おび通りの整備は、「路ひろば」として市民に都市活動の場を提供し、交流人口の増加や商業の活性化に寄与している。



▲「おび通り」。白と濃いグレーの舗装、千鳥に配した豊かな緑が、和風の街並みと調和した景観を形成している。



▲「おび通り」。伏流水が豊かな島田を象徴して水路を設置。水路に沿って足元灯と株立ちの樹木を配置し、緑豊かな空間を演出している。



▲「おび通り」の沿道建物は、地区計画に基づき、壁面線の位置をセットバックして揃えている。



▲毎月1回開かれる元気市で賑わう「おび通り」。祭り空間としても機能している「路ひろば」。



▲「おび通り」の南側広場に設けられた木製のステージで和太鼓を演奏する地元の若者たち。元気なまちづくりの活動に活用される舞台である。



▲「おび通り」の水路を利用して、子供たちはパチパチ花火を楽しんでいる。

美しいまちなみ優秀賞

伊丹市 伊丹酒蔵通り地区

所在地 兵庫県伊丹市
地区面積 約3.8ha
応募者 伊丹酒蔵通り協議会
伊丹市

<地区の概要>

当地区は、JR伊丹駅前の西側に位置し、かつては江戸中期から酒造業でさかえ、町家、酒蔵、社寺などが集中する郷町として灘におとらぬ繁栄を誇ったところである。

伊丹郷町の酒蔵・町屋のイメージを残すため、伊丹市は昭和59年に景観条例を制定し主に大規模建築物を対象に景観誘導を行ってきた。平成18年に景観法に基づく景観計画を策定し、色彩規制を加え、さらに平成20年より当地区を重点区域に指定して全ての建物を対象に景観誘導を実施している。一方で市は、メイン通りである歩行者優先道路について整備を行うとともに、沿道施設について助成金交付による修景事業を推進してきた。他方で、民間活力による長屋風飲食店が建設され、また地区内の商業者を中心とする活動組織が灯りのイベントを開催するなど、通りの景観形成と賑わい創出が公民一体で図られている。



▲伊丹駅前から東西に伸びる歩行者専用道路沿いには、酒蔵や郷町長屋風飲食店、再現された大溝などが建ち並び、江戸時代より栄えた伊丹郷町の趣を今に伝えている。



▲「白雪ブルーベリービレッジ長寿蔵」は、19世紀中期に建設された酒蔵で、平成7年に内部を改装し、現在レストラン・展示施設として活用されている。



▲郷町長屋風飲食店(第1号)により、通りの景観形成と賑わいの創出がなされている。



▲発掘調査で発見された江戸時代の遺構「大溝」が再現され、酒造りで栄えた江戸時代の趣を今に伝えている。



▲地区の西端に位置する本泉寺の本堂は、戦争や震災を逃れ300年の歴史を誇っている。土塀は、道行く人々に歴史的風情を感じさせる。



▲「伊丹酒蔵通り協議会」主催で行われた「伊丹酒蔵通りまち灯り」イベントでは、協議会メンバーの手作りの行灯が並べられた。

美しいまちなみ優秀賞

鳥取市 夢街道・鹿野往来城下町地区

所在地 鳥取県鳥取市
地区面積 約40.5ha
応募者 特定非営利活動法人 いんしゅう鹿野
まちづくり協議会
鳥取市

<地区の概要>

当地区は、江戸初期頃の町割りをそのまま引き継ぎ、狭く折れ曲がった道や切妻家屋、格子戸など城下町としての面影を色濃く残している。

400年の伝統を誇る「鹿野祭り」の似合うまちをテーマに、市は「街なみ環境整備事業」を導入し、行政による「景観ガイドライン」や住民主体による「街づくり協定書」に基づき、行政と住民の協働で景観まちづくりに取り組みされてきた。こうした中、伝統文化の振興による地域活性化を目的とする活動組織（いんしゅう鹿野まちづくり協議会）が地元有志により発足し、同組織は、整備された街なみを活かして「いんしゅう鹿野盆踊り」、「虚無僧行脚・レトロ市」などの城下町情緒溢れるイベントの開催をはじめ、空家を借受け改修し、活動拠点や食事処の運営等を行っている。

事業開始から13年が経過して、京格子の町屋や白壁に腰板張りの屋敷など往時の風情がよみがえり、来訪者が増加している。



▲ 地区全景。当地区は、戦国時代末期の武将、亀井茲矩の居城（鹿野城）の麓に広がる城下町として栄えた。道路、水路などの町割りは当時のままである。



▲ 明治45年に建築された「田中邸」。千本格子の向こう、客間の先に、風情ある中庭を垣間見ることができる。



▲ 下町通りの「稲垣邸」。築後200年以上と言われている。昭和50年代、作家の司馬遼太郎氏がこの建物などをスケッチし、「全体にえも言われぬ気品をもった集落」と表現している。



▲ 鹿野ゆめ本陣。藍染め暖簾、布草履などの手作り工芸品や、特産のそば粉を使った手作りの「そばアイス」が人気。中庭に牛小屋をリフォームした藍染工房があり、藍染め体験ができる。



▲ 虚無僧行脚。西暦奇数年の9月下旬に開催。全国から集まった約50名の尺八愛好者が虚無僧姿で鹿野往来を行脚。昼夜行われ、日が落ちると通りの民家は提灯を灯して情景演出に協力。



▲ 鳥取県無形民俗文化財の城山神社祭礼「鹿野祭り」。大祭は、西暦偶数年の4月上旬に開催。住民の積極的なまちづくりへの参画により、「鹿野祭りの似合う街なみ」が蘇りつつある。

美しいまちなみ優秀賞

八女市 八女福島地区

所在地 福岡県八女市
地区面積 約47.7ha
応募者 八女福島伝統的町並み協定運営委員会
八女市
特定非営利活動法人 八女町並みデザイン研究会

<地区の概要>

当地区は、城下町建設当時の町割を残し、幕末に防火目的で普及した居蔵(土蔵)造りの町家母屋を中心に多様な形式の伝統的建造物が連続する町並み景観を有している。

住民が、歴史的町並み景観の維持・継承のため、まちづくり協定を締結し、その運営組織(協定運営委員会)を発足。それを受けて市は「街なみ環境整備事業」及び「伝統的建造物群保存地区保存整備事業」を導入して町並み整備に着手した。協定運営委員会は「まちなみ修理・修景マニュアル」の作成や多彩なイベント活動、空き家活用事業等を主導し、また建築士、大工等で結成するNPO組織が伝統工法による修理・修景技術の普及活動を展開するなど、公民協働で景観まちづくりを推進している。

この結果、町家を再生活用した住宅、店舗等が増加し、また修理後の空き町家への入居者(新住民)も増え、徐々に活性化しつつある。



▲ 旧往還道に接する居蔵造りと呼ぶ町家建築が連続し、補助事業により修理・修景が進められている(東古松町)。



▲ 旧往還道は、明治と昭和初期の2回拡幅工事が実施され、1階の下屋庇が切断された固有の景観を形成している(東宮野町)。



▲ 旧城下町時代の外堀の遺構。現在は水路として機能しており、護岸は伝統工法の切石積みや玉石積みとなっている。



▲ 写真左: 建築集団のNPOが修理技術等の向上のため実施している現場研修会の様子。写真右: 小学生による伝統的建造物の修理体験学習の様子(伝統工法による土壁塗り)。



▲ 空き町家を所有者の理解のもと地元外の人に斡旋し、補助事業により修理し、専用住宅として活用した例。



▲ 町家を所有者が補助事業で新築修景したもので、町並み景観のモデルとして、また町家暮らしの良さを住民に知らしめるモデルとなっている。

美しいまちなみ特別賞

横浜市 帷子川親水緑道地区

所在地
地区面積
応募者

神奈川県横浜市

約1.6ha

帷子川親水緑道鶴ヶ峰地区公園愛護会
帷子川親水緑道白根地区公園愛護会
帷子川親水緑道家敷地区公園愛護会
帷子川親水緑道ホタルの会
横浜市

<地区の概要>

当地区は、横浜市の副都心の一つとして位置づけられる相鉄線鶴ヶ峰駅前(旭区)に位置する。

帷子川の河川改修により生じた旧河川敷を活用して横浜市が整備したもので、河川敷沿いの竹林、雑木林など約9,000㎡を取得するほか、隣接する民有林を借景し、自然の微地形と季節の変化が楽しめる緑道として市民に親しまれている。地域住民組織と区役所の協働による維持管理活動(地区の清掃・除草、樹木の剪定・伐採、危険個所の補修等)のほか、地域の有志などによる「ホタルの舞う里」をめざした活動などを展開している。また区民と区役所の主催による「旭区民まつり」や町内会自治会の「駅伝大会」等のイベント会場として、また小学校の環境教育などにも活用されている。

こうした取り組みの結果、通勤・通学路はもとより、遠方からの来街者などで憩う人の姿が絶えない場所になっている。



▲ 地区全景。旭区を縦断する相模鉄道鶴ヶ峰駅前に位置し、線路と帷子川に挟まれ、周囲にはマンションや戸建住宅が広がっている。



▲ 池・庭園ゾーン。鶴ヶ峰駅南口の再開発ビルを望む。都市と自然との調和を感じさせる。民有林を借景し、地形の変化と季節の移り変わりが楽しめる緑道となっている。



▲ 池・庭園ゾーンからせせらぎゾーンに入ったところ。隣接する建物との境界には生け垣を設け、景観の調和が図られている。



▲ ホタルの幼虫の餌となるカワニナを放流するホタルの会のメンバーと地元小学生。



▲ 足元灯は、周辺の住宅に配慮し、等間隔で配置されている。



▲ 愛護会による清掃活動の様子。3つの愛護会が連携し、それぞれの担当エリアで活動している。

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」について

1. 表彰目的

活力ある潤い豊かな美しいまちなみは、国民全体が目指すべきまちづくりの目標であり、地域の大切な資産になるものであると同時に、都市・地域再生の進展や観光交流の発展のために重要な要素となるものです。

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」は、美しいまちなみを創り、育てるために、行政と民間が協力し、ハードとソフトの両面を含めた総合的な取り組みが行われている地区を全国から募集し、その中でも特に優れた地区について表彰を行い、広く国民に紹介していくことにより、より良い都市空間の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ①美しいまちなみ大賞（国土交通大臣賞）・概ね1～2地区
- ②美しいまちなみ優秀賞 ・ ・ ・ 数地区
- ③美しいまちなみ特別賞 ・ ・ ・ 内容に応じ、適宜選定

3. 対象地区

次の両方の要件を満たす地区とします。

- ① 地方公共団体と住民やNPO、企業等が協力し、街路や公園等の公共空間と建築物等による民有空間を一体とした美しいまちなみが形成されていること。
(建築物等の規制・誘導、電線類の処理、広告物の整序等が考慮されており、あわせて沿道景観等にも配慮した道路等の公共施設の整備が行われていること等)
- ② まちなみの維持・保全に係わるNPO等のまちづくり組織等*が設立され、適切な管理・運営がなされているとともに、まちなみが十分に活用され、地域の活性化が図られていること。

なお、地区の範囲については、まちなみを対象とした一定の空間的広がりを想定しており、単体の構造物による景観の保全・創出は対象とはなりません。

4. 応募者

応募地区の所在する地方公共団体（都道府県又は市町村又は特別区）と、まちなみの維持・保全に係わるまちづくり組織等とが一体で応募するものとします。また、このほかに、まちづくりにかかる事業の実施主体等の関係団体も共同応募者となることができます。

5. 審査及び表彰

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞「美しいまちなみ賞」審査委員会において、応募図書等をもとに、まちなみの整備や維持・保全活動の新規性、獨創性、模範性等のほか、都市・地域再生や観光交流の面でのアピール性等を審査した上で、各賞を選定します。

6. 審査委員会 委員名簿

| | | |
|-----|------|------------------------|
| 委員長 | 中村良夫 | 東京工業大学 名誉教授 |
| 委員 | 岩淵潤子 | 慶応義塾大学 教授 |
| | 卯月盛夫 | 早稲田大学芸術学校 教授 |
| | 加藤 源 | 都市プランナー |
| | 岸井隆幸 | 日本大学 教授 |
| | 輿水 肇 | 明治大学 教授 |
| | 田中一雄 | 環境・工業デザイナー |
| | 富田泰行 | 照明デザイナー |
| | 富田玲子 | 建築家 |
| | 松葉一清 | 建築評論家 |
| | 由木文彦 | 国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課長 |
| | 松田秀夫 | 国土交通省 都市・地域整備局 市街地整備課長 |
| | 橋本公博 | 国土交通省 住宅局 市街地建築課長 |

(順不同、敬称略、平成20年6月現在)

■主催:「都市景観の日」実行委員会

(財)都市計画協会、(社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、(財)民間都市開発推進機構、(社)日本都市計画学会、(財)都市みらい推進機構、(社)街づくり区画整理協会、(社)全日本屋外広告業団体連合会、(財)都市緑化基金、(財)都市づくりパブリックデザインセンター、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市連絡協議会、全国街路事業促進協議会

■後援:国土交通省

■協賛団体:

(財)都市文化振興財団、(財)計量計画研究所、(財)区画整理促進機構、(社)日本交通計画協会、(社)再開発コーディネーター協会、(財)日本造園修景協会、(社)日本造園建設業協会、(財)公園緑地管理財団、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(社)日本下水道協会、(財)自転車駐車場整備センター、(社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局:(財)都市づくりパブリックデザインセンター

〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-12 TEL 03-3222-0981 URL <http://www.udc.or.jp>